

今日はまず、教科書についての話題を取り上げたいと思います。

今から九十年ほど前のことでありますが、全てのページがイラストだけで構成された教科書が使われていたことがありました。それは小学一年生の算数の教科書でありますけれども、今の専門家の目から見ましても、この教科書は高く評価できるということでありました。

私がこのことを知ったのは新聞の記事を通してでありましたが、できれば実物を見てみたいと思つて検索をかけたところ、全てのページを画像化したものを見つけることができました。

全部で三十数ページありましたが、全てのページにイラストがずらりと並んでいます。子供たちが玉入れをしているところでありますとか、動物たちが綱引きをしているところなどのイラストもありました。それぞれをよく見てみますと、数につながる要素がちりばめられていることが分かります。

こういう教科書から子供たちは何をどう学んでいくのかということが気になるところでありますけれども、専門家によりますと、初めて数とはどういうものかということを学ぶ際には、

こういう身近なものから入ることが効果的だということでありました。

また、イラストばかりで問題がどこにも書いていないということについては、教える先生たちの力量が問われるということはあるけれども、先生たちにとつても子供たちにとつても、算数を考える力を育むことにつながるのではないかということでありました。

どんな教科書なのか、あなたも見てみたいと思いませんか。

次は、今まさに旬を迎えているイチゴを取り上げたいと思います。

かつてイチゴの旬は四月から五月にかけてでありました。小さな木箱に入れられたイチゴの姿を今でも思い出すことができます。当時のイチゴは酸味が強かったものですから、砂糖やミルクなどと一緒に**食べる**ことが多かったように思います。

そんなイチゴであります。今では旬もすっかり早まりました。クリスマス前にはもう店頭と並んでいるのを見ることが出来ます。甘みも増して、そのまま口に運ぶのが一般的になりました。

さて、今は多くの人に好まれているイチゴでありますけれども、日本に最初に入ってきた頃はほとんど受け入れられなかったということでもあります。江戸時代の終わり頃、オランダの船によって持ち込まれたそうでありますけれども、当時の日本人は大きなイチゴを見たことがなかったこともありまして、このイチゴには毒があると疑われたこともあったそうであります。

その後も海外からいろいろな品種が入ってきましたが、広く食べられるようになったのは戦後になってからのようであります。

新しい品種が生まれたり栽培技術の改良が進んだりするにつれて、いつの間にかイチゴを生で食べる消費量は日本が世界一だということも言われるようになりました。イチゴの品種は日本には三百ほどあるということでありますけれども、店頭には毎年のように新しい品種が並びます。

今はイチゴのおいしい季節です。店先にきれいに並べられた色鮮やかなイチゴの誘惑に、あなたは勝てますか。(了)